

女性医師による女性医師のための保育施設 『Dr.MOM Nursery School』オープン

2006年5月15日(月)より、東京都新宿区に女性医師の子どもを対象としたナーサリースクール『Dr.MOM Nursery School』がオープンしている。長時間保育や突発的な事情による時間延長、さらには病児や病後児の保育など、子どもを持つ女性医師の各種ニーズに細やかに対応するとして注目を集める同ナーサリーの開設者で園長の池田美智子氏(池田耳鼻咽喉科院長)に話をうかがった。

延長保育や病児・病後児保育、 与薬も可能なナーサリー

『Dr.MOM Nursery School』は、女性医師が出産や育児などによってキャリアを中断することなく、臨床や研究の分野で力を発揮できる環境が必要だとの思いから設立した保育施設です。定員は30名ですが、施設は厚生労働省や東京都の規定では乳幼児43名までお預かりできるだけの広いスペースを確保。内装は清潔感と安全性に留意しつつ、間接照明やコルクの床など木材を多用してアットホームで落ち着いた雰囲気になりました。

当ナーサリーの最大の特徴は、女性医師の子どものみを預かる点。このように特化した理由のひとつは、医師という仕事の特殊性です。たとえば医師の仕事は長時間、しかも定時できっちりと終わるものではなく、急患や患者さんの急変、手術が延びてしまったりなどで、自分で勤務時間をコントロールできない場合が多くあります。ですから、長時間、しかも安全で確実に子どもを預かってくれる場所が絶対的に必要なのです。当ナーサリーの保育時間は7:00~20:00の13時間を基本に、さらに突発的な事情が起きた場合には事前連

絡があれば2時間、つまり22:00までの延長を可能にしています。

また、一般的な保育園などでは38度以上の熱があるなどの病児は預かってもらえませんし、子どもが保育中に発熱した場合には保護者のもとに連絡があり、すぐ迎えに行かなければなりません。しかし、人命にもかかわる医師の仕事の責任は重く、急に仕事を休んだり仕事中に迎えに行くのはなかなか難しいことです。子どもが朝から熱を出していても、保育中に発熱しても、伝染性の疾患など特別なケースを除いて預かって問題のない体調であれば預かり、与薬も行う当ナーサリーのような施設があれば、女性医師の皆さんには安心して仕事に専念していただけるでしょう。

女性医師が生涯を通じて 働きやすい環境づくりを

医学部における女性の割合が年々高くなる傾向にある昨今、女性医師の労働環境を整えていくことは、国が取り組むべき課題でもあるでしょう。このままこの課題が放置されれば、いずれは深刻な医師不足に陥るのは目に見えています。ただ行政の動きが遅いのは常で、それを待っている間に事態は悪化するばかり。身近なところから少しずつでも体制が変わるムーブメントを起こしていくべきだというのも今回のナーサリー開設に踏み切った大きな動機です。

ナーサリーをスタートさせて約半年、なんとか軌道に乗り始め、今後は当ナーサリーの存在の積極的なアピールにも力を注いでいくつもりです。そうすることで、若い女性医師には「安心して子どもを産んで大丈夫よ」と伝え、医療界に対しては「子どもを持つ女性医師が働きやすい環境づくりをしていきませんか」と訴えかけられればと思



園長 / 池田 美智子氏

っています。

私自身は非常に恵まれた環境の中で医師をつつながら子育てをすることができましたが、子どもを持つ多くの女性医師の皆さんは、子どもかキャリアか、どちらかの選択を迫られていました。今も、その状況はそれほど変わってはいないようです。当ナーサリーが、そういった現状に一石を投げられればうれしい限りです。



広々としたプレイルーム

◆『Dr. MOM Nursery School』概要◆

所在地: 〒160-0017
東京都新宿区左門町6-7鯉江ビル2階
TEL: 03-5362-3387
URL: <http://www.drmmom.co.jp/>
開園時間: 月~土曜日(日・祝日・年末年始は休園)の7:00~20:00(20:00~22:00延長可)
定員: 30名
対象年齢: 生後57日~就学前児
常勤スタッフ: チーフ1名、保育スタッフ4名、
管理栄養士1名、看護師1名、その他非常勤スタッフ
使用面積: 265.85㎡



おやつもすべて手づくり